

JRの業務外注化を止めるためのニュースです。感想や意見、現場の情報などをお寄せ下さい。(メール) dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

JRで働く労働者のみなさん、検修構内職場で働く青年労働者のみなさん

鉄道の安全、技術の継承を守るために 検修業務の外注化に反対の声を上げよう

毎日、鉄道を安全に運行するという当たり前のことを支えているのが検修業務です。検修業務は、明治5年(1872年)に日本で初めて鉄道が開業して以来、140年間にわたって蓄積され、先輩から継承されてきた固有の技術と熟練です。また各施設における固有の技術や慣習も長い時間をかけて積み重ねられてきたものです。

1日1600万人以上が利用するJR東日本の高密度の大量輸送は、国鉄時代も含めた長い歴史の中で営々と築かれてきた固有の技術や熟練によって支えられているのです。

いまJR東日本の経営戦略は、①駅ナカビジネス、②Suica事業、③鉄道事業——の順番で、鉄道事業は3番目です。尼崎(福知山線)事故などの重大事故が起きても、反省は口先だけ。鉄道会社として価値観が転倒しています。人件費を削るために経験も技術もない下請け会社に検修構内業務を丸投げ委託しようとしているのです。

年間3000億円を超える黒字を出す会社が、さらなる金儲けのために検修業務を丸ごと下請けに委託することは明らかに不正義です。鉄道の安全を守る仕事に誇りと喜びを持って働いている労働者の職場を奪い、出向や転籍に迫りやる——こんなことは絶対に間違っています。

検修構内業務が外注化されれば、安全や技術継承は崩壊します。一部外注化の現実を見れば明らかです。事故やトラブルが頻発しています。外注化に正義はありません。外注化に反対の声をみんなで上げよう。

鉄道会社の部内原因による輸送障害

事業者名	原因	係員	車両	施設	計	発生率(列車走行100万kmあたり)
JR北海道		5	69	35	109	2.82
JR東日本		48	236	104	388	1.70
JR東海		5	7	16	28	0.59
JR西日本		35	156	67	258	1.54
JR四国		1	8	6	15	0.69
JR九州		9	38	10	57	0.86
JR貨物		35	177	6	218	3.00
JR各社計		138	691	244	1073	1.67
東武鉄道		1	4	1	6	0.15
西武鉄道			1		1	0.05
京成電鉄		1		3	4	0.33
京王電鉄					0	0.00
小田急電鉄		1			1	0.05
東京急行電鉄		1	1	2	4	0.23
京浜急行電鉄					0	0.00
相模鉄道				1	1	0.19
名古屋鉄道		3	5	1	9	0.21
近畿日本鉄道		1	5	4	10	0.16
南海電気鉄道			2	1	3	0.19
京阪電気鉄道			1	1	2	0.15
阪急鉄道					0	0.00
阪神電気鉄道				2	2	0.28
西日本鉄道			2	3	5	0.55
大手私鉄計		8	21	19	48	0.15

※平成19年度分国土交通省まとめ、数字はいずれも件数

JR東の輸送障害は大手私鉄の11倍以上
 ▲上の表は、国土交通省がまとめた2007年度鉄道輸送障害件数です。部内原因(係員、車両、施設)による輸送障害件数の列車走行100万kmあたりの発生率はJR東日本が1・70件で、大手私鉄15社平均0・15件の11倍以上。突出しています。